



桂川電機株式会社

2014年3月期 第2四半期業績概況

本格的な収益力の回復に向けて



当第2四半期連結累計期間（平成25年4月～平成25年9月）におけるわが国経済は、政府及び日本銀行による金融政策により、株価の上昇、円高相場の是正が進み景気回復の兆しが見られましたが、円安に伴う原材料価格の上昇、新興国経済の経済成長の鈍化等、景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

こうした中、当社グループにおきましては、販売面では、欧州市場への販売体制を見直し、好調な北米市場に注力し販売活動を行い、また、開発及び生産面では、コア部材の内製化を進める等、原価低減に努めてまいりました。

その結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、58億46百万円と前年同四半期の57億73百万円に比べて73百万円の増収となりました。

営業損益は、部材の内製化等を進めたことによる売上原価の低減により、84百万円の利益（前年同四半期は4億14百万円の損失）、経常利益は為替差益を2億14百万円計上したことにより、3億25百万円の利益（前年同四半期は6億81百万円の損失）、四半期純損益は2億94百万円の利益（前年同四半期は7億2百万円の損失）となり、組織業務の改善に加え、円安傾向といった為替の追い風を背に、収益力の回復に向け進行中です。

2014年3月期 第2四半期連結業績概況



<単位：百万円>

項目	2013.3-2Q 実績	2014.3-2Q 実績	前年同期比増減 額	業績予想進捗率 (%)
売上高	5,773	5,846	73	
売上総利益	1,282	1,636	354	
営業利益	△414	84	498	—
経常利益	△681	325	1,006	—
純利益	△702	294	996	—

<主要な為替レート>

通貨	平均	期末
1ドル	¥ 95.59	¥ 98.59
1ユーロ	¥ 125.49	¥ 128.53

※当第2四半期決算採用レート

組織とビジネスの見直しをチャンスに、 昨年をボトムとして飛躍を！

当社グループの強みは、1960年代に開始し、その後継続して現在当社グループの基幹となる電子写真技術応用の複写機、プリンタ、スキャナといった画像情報機器に係る長年にわたり重ね築き上げた良好な経験とスキル、そして卓越した技術力にあります。

時代は変われども、開発型メーカーに求められるものは、揺るぎない技術力への自信と真摯なる謙虚さ、探求心かと思えます。

当社グループは、それを根底に更なる一歩に絶えず歩みを進めて行く所存です。

画像情報機器事業 5,785百万円（前年同期比 67百万円増収）

- 円安が業績向上に寄与し、市場競争が一段と激化する中、売上高は前年同期比でやや増収
- 高価格帯モデルは、回復に向かい推移
- 低価格帯モデルは、積極的な需要喚起を図る

その他事業 60百万円（前年同期比 6百万円増収）

- モーションデバイス事業の販路拡大を継続

事業別の業績-画像情報機器事業

画像情報機器事業

<単位：百万円>

	H25.3 2Q	H26.3 2Q
売上	5,718	5,785
営業利益	△408	90

黒字に
転化！

<アメリカ市場>

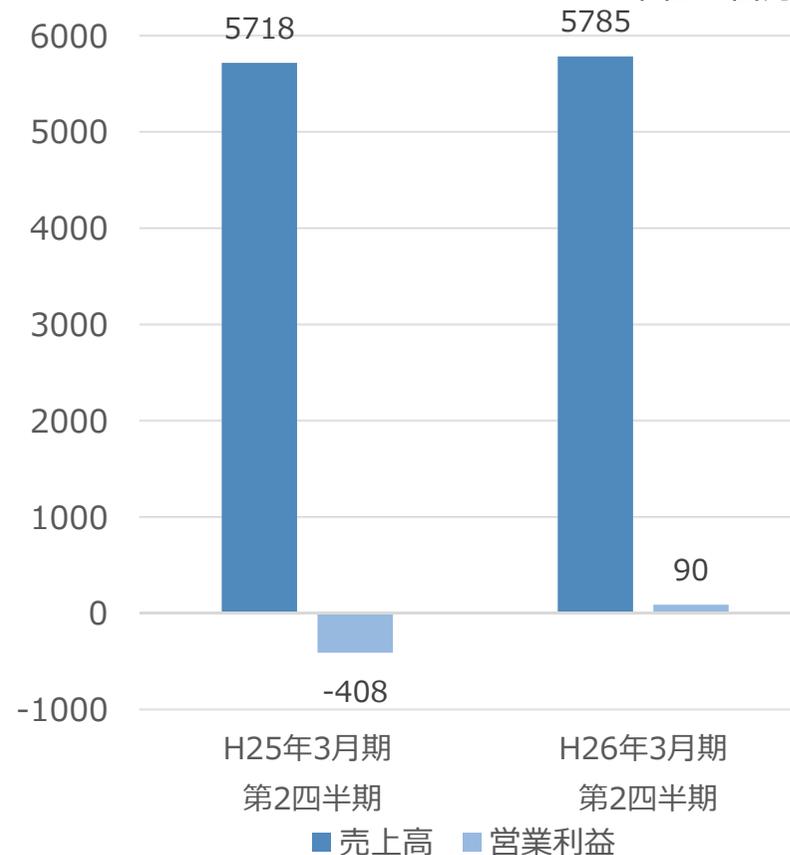
- ⇒営業努力により、収益悪化に歯止め
- ⇒モノクロモデルを中心に営業活動を展開

<ヨーロッパ市場>

- ⇒カラー機の拡販に注力
- ⇒モノクロモデルは他社製品との競争激化

画像情報機器事業

<単位：百万円>



事業別の業績-その他事業

その他事業

<単位：百万円>

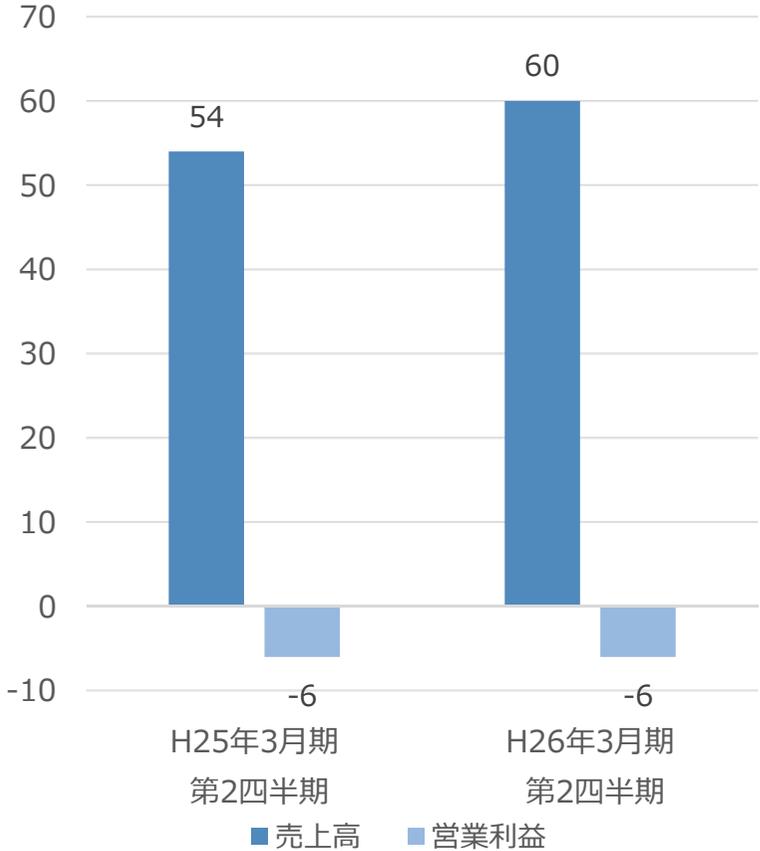
	H25.3 2Q	H26.3 2Q
売上	54	60
営業利益	△6	△6

<モーションデバイス事業>

⇒ マイクロモータ等を主体に顧客ニーズをキャッチアップした製品開発・品質向上に注力

その他事業

<単位：百万円>



営業外収益内訳

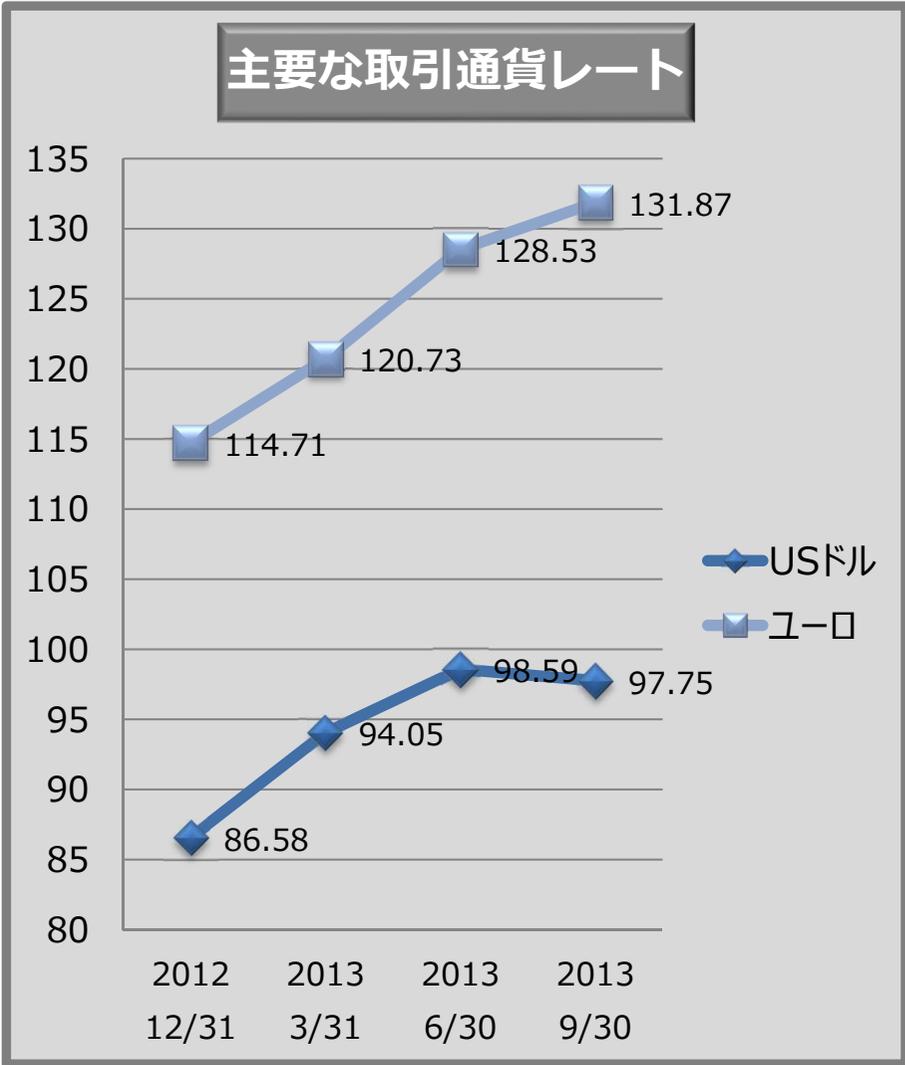
(前2Q 65百万円)
営業外収益 254百万円

<主要な内訳>

◆為替差益 **214百万円**

今年に入り、対ドル・ユーロで
 円安基調で推移。

※取引通貨レートの数値は、各決算期末日
 のTTMレート
 【出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング】



今後の取組について

KIP

生産構造改革を含む原価低減による収益構造改革

事業環境を勘案し、人員の適正化を含む組織再構築による収益構造改革

市場ニーズを的確にとらえた製品開発

製品・サービス共に品質の更なる向上

新規事業の開拓

